

質疑 学校に対してかなり AED が導入されたが、使う方々の講習の状況はどうなっているのか。

答弁 各学校から消防署等に依頼すると研修のために多くの AED を持つてきてくれる。それを受けて、実際に体験という形で先生方は研修をしている。また、中学校では生徒も使えるように研修会を開いている。

質疑 小中学校の桜を中心とした樹木の剪定について今年度の予算にはないが、今後予定があるのか。

答弁 特に予算要求はしていないが、危険木等については、各学校等と協力しながら子供たちの安全を守っていききたい。

質疑 西小学校の工事はどのようなことをやるのか。

答弁 グラウンドの整備、通路の舗装、暗渠排水溝、フェンス、バックネット、外灯が含まれている。



各特別会計・企業会計から

質疑 今年の新規事業として、高額医療合算サービス費があるが、その内容について伺いたい。

答弁 高額医療と高額介護療養の合算制度。要介護者の医療と介護の自己負担分の限度額を超えた分を申請によって戻すという制度で、二十一年度は二十年四月にさかのぼって行われる。

質疑 下水道会計での借換債の効果はどのくらいか。

答弁 二十一年度は四億八千四百万円の借り換えを予定しており、一億一千百万円ほど利子の軽減を図る予定である。

質疑 医療費が十五億ぐらい増収になっているが、これについてどういう考えを持っているのか。

答弁 産婦人科における本格的なお産の再開、第三内科、精神科の常勤医の増、DPC の導入、各診療科での収入増の取り組み等で収入の確保をしていくが、今後の医師確保に大きく左右される。

討 論

定例会の最終日において平成二十一年度一般会計予算等に対して討論がありました。(要旨)

反 対

景気の減退で市税収入が落ち込んでいる中、財政再建に奮闘しているが、次の支出について疑問がある。

一、高森山総合運動公園整備の四億七千万円余の工事を、毎年五億円前後の資金を投じてきているが、不要不急と考える。

二、多くの市民の反対にもかかわらず推し進めた野外芸術文化ゾーン計画の最終予算二億八千万円。

三、地方特定道路整備事業の儀兵平・千歳森線。この場所に片側二車線の道路、物件の移転補償までも含む工事の必要性はないのではないか。

四、電源立地地域対策交付金の扱い。今後の市政が国の核燃政策に縛られないよう、市の主要施策ではなく、市民に直接還元するなど、市民の生活と安全にか

かわる分野への利用を考えるべきではないか。以上のことから、本予算案に反対するものである。

賛 成

百年に一度と言われている急激な景気後退の影響による厳しい社会経済情勢の中、集中改革プランに基づく行財政改革の着実な実施を初め、施策の選択と集中により、経費全般について徹底した節減と合理化を図り、健全な財政運営を目指しながら、感動・創造都市の実現を基本とした、本市が取り組むべき主要施策が盛り込まれている。

第一次十和田市総合計画の基本構想に掲げる基本目標の五つの柱に沿って、休屋地区の生活基盤整備、環境保全事業、学校施設耐震診断業務、セーフコミュニティの認証取得、中心市街地活性化推進計画の策定と支援、市民参画による協働のまちづくりの施策等を講じている。

このように本予算案は、厳しい財政状況にありながら、新市発展のため、バランスのとれた予算案であると高く評価する。

新しい常任委員会等の構成

総務文教

- 委員長 今泉勝博
- 副委員長 野月一博
- 委員 桜田博幸
- 委員 赤石継美
- 委員 米田由太郎
- 委員 杉山道夫
- 委員 江渡龍博

建設

- 委員長 田中重光
- 副委員長 野月一正
- 委員 石橋義雄
- 委員 豊川泰市
- 委員 戸来忠見
- 委員 野月忠見

観光経済

- 委員長 小川洋平
- 副委員長 畑山親弘
- 委員 舛甚英文
- 委員 堰野端展雄
- 委員 岩城康一郎
- 委員 東秀夫
- 委員 赤坂孝悦

議会運営

- 委員長 赤坂孝悦
- 副委員長 赤石継美
- 委員 工藤正廣
- 委員 野月一正
- 委員 畑山親弘
- 委員 野月一正
- 委員 山野月一
- 委員 山本富雄
- 委員 戸来富雄

民生福祉

- 委員長 竹島勝昭
- 副委員長 漆畑善次郎
- 委員 鳥越正美
- 委員 工藤正廣
- 委員 山本富雄
- 委員 沢目正俊

